

2010年よりYKKグループでは年1回ステークホルダーダイアログを開催しています。さまざまな分野のステークホルダーの皆様からご意見をお伺いし、YKKグループの社会・環境活動に役立てています。第2回目は、2011年4月13日に黒部事業所にて開催いたしました。富山県立大学 九里 徳泰先生をファシリテーターに、2010年にいただいたご意見に対する活動報告と、YKKグループが持続可能な社会を目指すための4つの取り組みについて、ご意見をいただきました。

2010年ダイアログでの ご意見に対する活動報告

2010年にいただいたご意見

環境負荷低減活動の課題	CSR 経営の方向性や課題
海外を含めたコンプライアンスの向上	社員の意識や倫理観の向上
地下水の使用による近隣地域への影響	植樹の意味と最終目標
低炭素社会への対応	商品を通じた社会的責任

海外を含めたコンプライアンスの向上では、各国・地域の体制・法規制を調査し、それに基づいてYKKグループ独自のガイドラインを設定しました。同時に各拠点の責任を明確化し、域内での遵法性をチェックできる体制を構築しました。海外での監査も引き続き実施し、昨年はトルコ、中国、インドネシア、北中米で遵法性をチェックしています。

YKKグループと
「自然界の共生」
ステークホルダーの皆様から
いただいたご意見を
今後の活動に活かしていきます。

左から

自治体：中谷 松憲 氏(黒部市 市民生活部 市民環境課 課長補佐・環境係長)

取引先：平野 明 氏(平野工務店株式会社 代表取締役)

消費者：稲垣 里佳 氏(富山県地球温暖化防止活動推進員)

ナチュラリスト：松木 紀久代 氏(黒部峡谷ナチュラリスト研究会事務局長)

地域住民：大上戸 久雄 氏(村椿自治振興会 副会長)

学生：松岡 志温 氏(富山県立大学短期大学部専攻科環境システム専攻2年)

ファシリテーター：九里 徳泰 氏(富山県立大学工学部環境工学科教授)



地下水の使用による地域への影響について、循環利用など地下水の使用量削減とともに、2010年度は黒部川扇状地の井戸の塩水化調査を行い、地下水利用の影響を確認しました。YKKが利用している地下水流域に塩水化は見られませんでした。

低炭素社会の実現に向けては、生産設備や空調、照明の高効率化などを進め、スギの木14.5万本が年間に吸収するCO₂を削減できました。また、CO₂換算は、2010年から第三者検証を導入し、国際的に認められたルールのもと、営業所も含めた300拠点すべてのCO₂の排出量を算出しています。第三者検証には排出源や燃料種ごとのデータが得られるという利点もあり、今後のCO₂削減計画立案に役立てる考えです。

社員の意識や倫理観の向上では、YKKグループではグリーン大作戦と称し、工場および公共施設周辺の清掃を行い、美観やモラルの向上に貢献しています。また、通勤時の右側歩行を徹底するとともに、事業別の時差出勤も実施し、工場周辺の渋滞緩和に成果が表れたと認識しています。東日本大震災に対しては、多くの社員が労働組合の義援金募集に協力しました。

2008年からグループ全体で行っている「YKK Group Tree Planting Day」も、2011年度からは各国・地域に合った植物を複数種類選定して植樹し、生態系を尊重し緑化を進めます。センターパークでは黒部川扇状地の生態系を再現・保存するため、黒部川水系の生態系調査や水中の常時監視、水中映像の公開などを計画中です。

最後に、商品を通した社会的責任に関して、建材ではガラスとサッシを一体化し、性能と品質を保証する商品「APW」を開発しました。10年保証が特徴となっています。ファスニングでは、アウトドア用品で有名なパタゴニアと商品開発のパートナーシップを結びました。再生PETで作られたリサイクルファスナー「NATULON®」を提供し、2010年にはパタゴニアの主要商品すべてがNATULON®に置き換えられています。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み① 「善の巡環」とグローバル展開

九里先生(以下先生):YKKグループは「善の巡環」を根幹にグローバル展開を行っています。グローバルな活動に対するYKKグループへの期待など、今後の更なる取り組みについてご意見をいただければと思います。

稲垣(消費者):日本以外の地域に進出する際、地域の雇用拡大など、お互い同等の利益を得られるよう配慮いただくとともに、日本の環境保全や品質に関する事例を海外にどんどん広めていただきたいと思っています。

YKK:雇用面では上級職の現地人化が進んでいますし、女性がマネージメントに参画する例も増えています。

先生:注意が必要なのは児童労働です。1997年のN社の事例では世界中で不買運動が起きました。YKKはチェック機能をお持ちでしょうか。

YKK:採用時に履歴書と卒業証明書を提出させるなど、児童労働をさせないよう制度面から徹底しています。

平野(取引先):木の質感が美しく、耐久性に優れた製品「リウッド」は、世界標準となるポテンシャルがあると考えています。アルミの耐火性能の追求など、安全、安心に強みのある新素材の研究開発にも期待しています。

松岡(学生):アルミサッシのような自社製品のリサイクルの状況を教えてください。

先生:APWのようにシリアルナンバーのついている自社製品を回収すれば、品質が均一のリサイクル材が確保できますね。そういった計画はありますか？

YKK:将来的にはそれが目標です。また、自社製品ではありませんが、リサイクルアルミは、精錬に要する電気量が新規の約3%程度ですむので、利用を拡大しています。

先生:自社製品のリサイクルは地域社会や地球生態系との共存にも関わってくる課題ですから、技術革新や企業努力を期待します。

各拠点がお互いの活動を参考にできるような情報共有も大切ですね。コンプライアンスはただ単に法律を守るだけでなく、企業倫理がその基盤になければならないものですが、YKKには「善の巡環」という大きな倫理基盤があって、それを全世界の事業所に展開しようと強い意思を感じました。ただし文化の違いや距離感から、その意思が薄れていく可能性は充分あります。評価体制を作ることもお考えください。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み② 世界共通品質

先生:YKKは、伝統的に自社内ですべて調達する一貫生産体制のモノづくりを行ってきました。また、すべての事業分野において環境政策を推進し、環境に優しく高品質な製品を供給できる「世界共通品質」を掲げています。

大上戸(地域住民):5年ほど前、上海ファスナー工場を見学しました。あの機械はどこで作られているのですか？

YKK:ファスナーや建材をつくる機械の開発から製造、またその機械の部品、消耗品の製造までグループ内で一貫して製造しています。世界同一品質で提供するために、同じ機械、同じ材料でつくれる体制が必須だと考えています。

平野(取引先):モノづくりは人づくりでもあると思います。世界各国で言葉の壁を乗り越えながら、モノづくりへの情熱や、やりがい伝えるために、どのような取り組みをされていますか。

ステークホルダーダイアログ

YKK:どんなに性能の高い機械でも、それを活かすのは人間です。そこで新しい機械を稼働させるときは、必ず時間をかけて研修を行っています。

松岡(学生):世界共通品質を実現するため、「善の巡環」を取り込んだ人材教育システムが行われていると聞き、素晴らしいと思いました。

松木(ナチュラリスト):これからの高齢化社会には、誰もが安心して使えるユニバーサルデザインを意識した製品が求められると思います。今回の震災による電力供給の問題は、太陽光発電などへの転換を考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

先生:ユニバーサルデザインの根本に立ち返って、世界共通化ができるかどうか、ぜひチャレンジをしていただきたいと思います。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み③ 地域社会とともに

先生:YKKグループ経営理念にある「公正」を強く意識し、本業を活かした社会貢献から、教育や地域の活性化、国際交流のバックアップなど、さまざまな活動が行われています。なかでも地域の人や女性が働きやすい職場づくりへの取り組みが目立ちますね。

YKK:韓国とインドでは事業所に託児所を設けています。また、インドでは職業訓練センターで就業能力の向上を図っています。診療所に医師、看護師が常駐しているほか、医師をコミュニティに派遣して、そこで診察や治療を行うことも活動のひとつです。

中谷(自治体):黒部市にとってYKKの存在はやはり大きなものがあります。地域活性化に向けて、例えば海外での社会貢献の事例で黒部市にも応用できるものがあれば、ぜひ教えていただきたいです。

YKK:お国柄もあり、すべて応用・適用できるかは難しいですが、黒部にあったものをご提案したいと思います。



大上戸(地域住民):通勤時の右側通行にご協力いただき感謝しています。また、時差出勤を導入されたことで、近隣の朝の渋滞が大きく緩和されました。子どもたちの通学路も安全が確保され、大変良いことだと思っています。

先生:そうですね。地域の安全を守るため今後も真摯に考えていただきたい課題です。さらに言えば、低炭素社会へのアプローチとして、一人ひとりがガソリン車で通勤することも見直すべき時が来ているようにも思います。

稲垣(消費者):地域のクリーン作戦に社員の方が多数参加されたり、個人で環境に関する委員会のメンバーに入っておられたり、素晴らしいと思うのですが、それを奨励する社内の制度があればなお良いと思います。YKKさんは、事業所ごとに安全衛生や環境保全のスペシャリストがそろっておられるので、ぜひそういう能力を地域に活かしていただければと思います。

松木(ナチュラリスト):夏休みの子ども環境教室に参加した子どもたちと接するなかで気づいたのは、YKKが何をしている会社かわからない子が増えているということでした。地域の子もたちを招いて工場見学を実施したり、ビオトープを活用した教育プログラムなども提供していただけたらと思います。

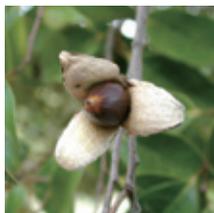
先生:地域の方々といかにコミュニケーションをとり、開かれた企業として見ていただく、関わっていただくかが大事です。協力の精神で近隣住民とともに地域を活性化していくことは企業の大きな使命だと思いますので、ぜひ今後も注力をお願いします。

「ふるさとの森」で育成されている植物

ふるさとの森では樹種(潜在植生)約20種類、2万本を苗木から育成し、社員だけでなく地域の方々にもご協力いただきながら植樹をしています。



創業100年の2034年ごろのYKKセンターパーク予想図



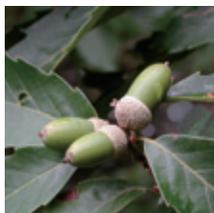
スタジイ



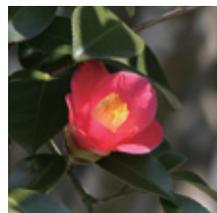
タブノキ



ハクウンボク



コナラ



ヤブツバキ



シラカシ

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み④

自然界との共生

先生:自然との共生は、低炭素社会、循環型社会と並ぶ、とても重要な課題です。YKKグループではビオトープによって自然を再生する試みや、グローバルな植林に取り組んでいるということですが、この観点からのご質問やご意見をお願いします。

松岡(学生):ビオトープについて、川の上流からビオトープへ、また、さらにその下流域へ、トータルな生態系デザインを考えていただきたいと思っています。

先生:人と自然の共存を学ぶESD (Education for Sustainable Development) というアプローチがあります。センターパークはそうした発想を展開するのに最適な場所です。子どもたちが体験し、学べる場をぜひ実現してください。

稲垣(消費者):私は黒部の出身なのですが、このセンターパークが誰でも自由に行き来できるということを知りませんでした。せっかくの施設なので、ぜひ市民に積極的にPRしていただいても、もっと活用できるようにされてはいいかかと思えます。

大上戸(地域住民):私どもは用水路の掃除、泥上げを3月末に、また7月早々には草刈りをやっています。同じ流域に住むものとして、川の周辺の清掃にも共同で対応していただきたい。

先生:地域の方々と連携して、最適な方法をご検討いただければと思います。

松木(ナチュラリスト):今、扇状地の地下水源の量が減少していると聞いています。行政や大学などと協力して、地下水量を把握する調査もしていただけないでしょうか。

平野(取引先):工業用水のくみ上げ量が最も多かった時期から比べると3~4割減っているようですが、今一つ努力をしていただいて、地下水利用の一層の削減を図っていただきたいと思えます。

先生:自然界との共生を考える上でビオトープは重要な役割を果たすと思います。今後は生態系を考慮した自然環境づくりを行いながら、それを地域の環境や子どもたちの教育にどう役立てていくかが課題ですね。地域との連携強化に期待しています。

平野(取引先):東日本大震災の影響は大変大きいですが、地域と手を取りながら、全社一丸となつてがんばってください。

先生:震災の復興に力を尽くし、ぜひその活動をプレスリリースを含めて社会に積極的に発信していただきたいと思えます。今日は皆さんご協力ありがとうございました。

今回のご指摘・ご意見

	ご指摘・ご意見
①「善の巡環」とグローバル展開	・倫理なくしてコンプライアンス無し ・モノづくり=人づくり
②世界共通品質	・感性工学、ユニバーサルデザインの発想 ・化石燃料に頼らない、新エネへの対応
③地域社会とともに	・協働のベストプラクティス提案 ・個人の能力の社会への提供
④自然界との共生	・地域の生態系の中でのビオトープ作り(ESDの活用) ・黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査(行政・大学との協力)

ステークホルダーダイアログを通して

本年は第2回が開催されました。このダイアログの場は、企業の影響を直接・間接に受ける関係者と企業が真摯に対話し、協働を通じて次なる社会と一緒に考える場です。YKKグループがこのような対話の場を持ったことを本年も評価したいと思います。さて、昨年指摘された環境負荷低減の課題、CSR経営の方向性・課題に対して、YKKグループから現状報告があり、この1年間YKKグループで行われた活動は明確に前進があることが認められました。本年は、グローバル展開、低炭素・循環型社会でのモノづくり、地域との協働、生物多様性といった課題項目が指摘されました。これを受けて、今後ともYKKグループが持続可能な社会づくりを目指し、更なるステークホルダーとの連携強化をすることを期待しています。

富山県立大学工学部環境工学科教授
九里 徳泰

ビオトープ観察会

古御堂エリアに二つ所在するビオトープ「ふるさとの水辺」は黒部川扇状地の湧水池です。2008年度より水生動植物を植栽・放流し、現在、植栽状況や生育状況を地元の専門家とともに定期的に視察し、アドバイスを受けています。2011年4月13日、ステークホルダーダイアログに先立ち、ダイアログ出席者の方々とともに、ビオトープの観察会が行われました。水生生物調査ではメダカとトミヨの生息を確認しました。トミヨはきれいな冷水を好み、水質の変化や濁水の影響を受けやすい淡水魚です。また、夏場にはアユが近隣の水路から遡上していることが確認されています。



トミヨ(トゲウオ科)



ビオトープでの水生生物の生息調査・観察(4月13日)